

庁舎改築周辺整備事業基本設計(案)に関するパブリックコメント

No.	属性	意見
1	軽井沢町に住んでいる	<p>設計者から、住民説明会で、子供食堂として利用される際には、150人ほど利用があり、調理室の周辺には、同時使用最大80人利用を見込み、子育て広場や対話の場に十分なスペースを設けたとの説明があったようです。現在、中央公民館では月1回（第4土曜）の子供食堂の開催ですが、第4土曜以外の週末は、別団体が、信濃追分「こもれびのさと」で実施しています。こもれびのさとには調理室の他、十分な広さのホールや和室もあります。学校給食の無い週末を過ごす子供たちには、月1回のイベントのために交流センターに大きなスペースを新たに作るのではなく、できれば毎週末、実施されることと、より必要性が高い運営面（食材等）の支援のほうが重要ではないでしょうか？</p> <p>また建物は、すでにある公共施設を最大限利用し、新たに作る施設を小さくすることが、その建設費やライフサイクルコストを抑えるのに有効だと思います。</p>
2	軽井沢町に住んでいる	<p>交流センターの計画について、「20～25平米の中規模面積のスタジオを複数増設」と「ピアノ設置または電子ピアノの貸し出し、または電子ピアノの保管場所設置」を希望いたします。</p> <p>軽井沢町で活動する歌の団体の代表をしております。日頃から中央公民館を利用して練習を行うなど、お世話になって参りました。これまでの利用を通して問題として感じていた点として、中央公民館にはピアノ設置の部屋が一室しかないために競争率が高く予約が取りにくかったことや、ピアノ設置のない部屋を利用する際には毎回電子ピアノの持ち込みを行う必要があったため利用のし難さ（不便さ）が挙げられます。また、公民館の予約が取れない時には、他の有料施設を使用することになるため経済面での難しさがありました。</p> <p>交流センターの計画についてですが、音楽の練習で利用できる部屋はある程度の防音対策をとられるスタジオやホールが作られるという点は良い案だと思います。一方で、面積の小さいスタジオでは中程度の人数で練習を行うにはメンバーが入り切らないために利用ができなくなることで、練習で必要となる中規模の部屋（20～25平米）は一室しかないようですので、競争力が高くなって結局予約が取り難くなるのではないかと不安に思っております。また、ピアノが設置されるかどうかは記載がないようでしたので、主なメンバーは高齢の女性であり、また障害者もメンバーに含まれていることから、今度さらに年齢を重ねることも加味しますと、電子ピアノの運搬を必要とする利用は非常に不便になることを懸念しております。</p> <p>上述の理由から、「20～25平米のスタジオを複数室」と「ピアノ設置または電子ピアノの貸し出し、または電子ピアノの保管場所設置」を希望として提案いたします。軽井沢町で活動する他の複数の音楽団体からも同様の意見を伺っております。是非ともご検討くださいましたら幸いです。どうぞ宜しくお願いいたします。</p>
3	軽井沢町に住んでいる	<p>1、空調設備のエネルギーを電気、一本にする危惧 ①電力引込を多重化の対応で万全ですか？ ・2018年9月におきた北海道胆振頭部の大地震を起因とした「ブラックアウト」（大規模停電のような、電力会社の供給システムをストップでは、引込みの多重化は役立ちますか？ ②浅間山の電力会社の電源供給ラインに大量の降灰によるトラブルの発生で電力供給が停まることは考えられませか？ ③将来設置で検討する、ソーラーパネルについても浅間山の大量の降灰により使用できないのではないのでしょうか？ ④最近の大災害、特に東日本大震災、能登地震など寒い冬に発生しています。もし軽井沢でこのような避難が必要な災害が冬に発生した場合、現在の計画案の電気エアコンのエネルギー源を電気のみにするのは、電力供給が避難民の生死にかかわる生命線になりますので、計画案にある機械ものでもあります大型の非常用発電機が動かない場合なども想定していなければならないのではないのでしょうか？また、防災センターの機能も発揮できません。2、防災対策の中心となる非常用発電機を大型化と、燃料を油（軽油）のみにする危惧 ①2018年9月におきた北海道胆振頭部の大地震を起因とした「ブラックアウト」（大規模停電の後（平成30年11月12日）一般社団法人日本内燃発電協会の発表の資料も参考にして、以下の点についても考えておく必要はあります。 ・多くの非常用発電機が動かなかった原因として報じられているのは ・メンテナンス不足（大型機は高額なメンテナンスが必要となります） ・燃料切れによる配管へのエア混入対応不足 ・油の劣化による対応不足もあげられています *全国石油連盟からは、軽油を適正に使うには6ヶ月で使い切るか全取り換えをするように推奨しています（油の使用また、交換のために多額の費用が発生します。また、使用する場合、CO2が多くなり環境政策に悪影響がでて、環境としての軽井沢新庁舎の非常用とはいえエネルギーとしては、いかがなものでしょうか？） ②大型の油タンクが大地震で被災した場合、油が地中に漏れ湯川まで浸透し二次汚染するこも可能性があります。また、被災で土壌に浸透した後処理についても危惧が考えられます。油タンクは可能な限り必要採点減まで少なくしたほうがいいと言えます。 3、1、と2、で考えられること ①空調設備を電気エネルギー式の1本化にするのではなく、エネルギー源に電気式、とLPガス式の多重化を検討する必要があると思います。 LPガス式エアコンは最近、経済産業省が進めている災害発生時に電力が途絶えたときに避難所として活用する場所のエアコン（電気が途絶えた場合、LPガスがあれば自立でエアコンを稼働させて、照明、コンセントにも少量の電気供給が可能な、電気式エアコンと全く同じタイプがあります）としても推奨されています。 ②非常用発電機についても、安易に湯発電機を提案するのではなく、機器分散の意味で、消防対応用の非常用発電機（油）と災害対応用として保安用の発電機（LPガス）に分けて複数台で検討するのが設計事務所としての災害時の軽井沢住民の事を考えた提案ではないのでしょうか？ ・保安用LPガス発電機は、環境面で油よりすぐれており、油より黒煙がなく、よごれが少なくメンテナンス性が良く、災害時に協定書を結ぶことで軽井沢町にあるLPガスからの供給が受けやすくなるのではないのでしょうか。 ・経済産業省の小エネルギー庁では、災害に強い分散型エネルギーとして、LPガスの利活用を進めています。また、さらなるレジリエンス強化を追求するとして（例）避難所として活用する病院へのLPガス発電機とLPガス空調機に補助金を支給することも推進しています。</p>
4	軽井沢町に住んでいる	<p>町は、納税者の税収があり、支払い能力があるから大丈夫とおっしゃいますが、今の説明では、少人数の設計者たちが安心するだけです。納税者としては、子供三人育てるのに教育費や上京して住宅費もかかる。自宅の修繕さえままならないのに、残念です。そこで、予算についての質問です。中東紛争の影響が出始めているご時世、増加しないのでしょうか？私たちは約束を破られても違約金をいただくことはできませんが、そう言うものも支払われていますよね？また、それはいくらだったのかお教えてください。災害に強い施設とのことですが、たった三日間の生活できる食糧と飲料水、あまりの少なさに驚愕しました。万が一、地震や噴火、災害が冬に起きたら納税者たる民は凍え死にます。</p>
5	軽井沢町に住んでいる	<p>【13ページ】 駐車場が広くて遠くて、冬は寒いのに歩いて行くのが大変です。「思いやり駐車場」があると言っても、たった5台では少ないです。みんな近くに停めたがるのですぐいっぱいになりますから。もう高齢化社会なので足腰の弱い人も多く、さらに今後不自由な人が増えるから思いやり駐車場は少なくとも10台～15台は必要です。</p> <p>【15ページ】 平面図を見ると、庁舎より交流センターが中心の建物になっていることがわかります。本来の目的は「庁舎の改築」であって、交流センターを造ることはなかったはずですが。一体化して中央公民館を交流センターと名前を変えて大きくしたために建設費も高くなっています。本来の目的である庁舎だけでよいのではないのでしょうか。中央公民館はあと40年は使えるのですから使うべきでしょう。リノベーションすれば交流センターとして機能も盛り込めて、将来世代への負担も減らせます。まだまだ使える建物を壊す大きなコンクリートの建物を破壊することは、CO2削減をうたっている軽井沢には間違った行為であると言えます。</p> <p>【15ページ平面図】 中庭があることによって、マイナス面が大きいではありませんか。 寒冷地軽井沢なので開口部が大きいとペアガラス、トリプルガラスを使用しても、断熱材が入った壁に比べて冷気が伝わりやすいことはあきらかです。3連休などに雪が降ると凍ってしまうので中庭の除雪は大変ではないありませんか。無駄な労力を使うことになります。</p> <p>【15ページ平面図】 カフェはいりません。カフェという要望が多いからと入れることはありません。住民が希望として言っていたましたが、その時は建設費高騰の問題は出てきていませんでしたから、ただ希望を言っただけです、しかし実際運営すると経費や人件費がかかります。また、カフェは町内に山ほどあり、経営も厳しい状態なのに、行政側がカフェ商売の邪魔をはいけません。もし管理会社に任せるにしたらもっと経費がかかります。自動販売機と椅子テーブルがあれば十分機能は果たせます。</p> <p>「総事業費概算について」3ページ 備考5 解体費の金額の中に、アスベスト除去分に係る経費を除いているのはなぜですか。いくら見込んでいますか。</p>

No.	属性	意見
6	<p>軽井沢町に別荘を所有している</p>	<p>交流センターには、交流の促進を図るためなのか、開かれた広場や間がありますが、これほど、たくさんいるんでしょうか？ すでにある発地市庭や信濃追分の福祉施設を見ても、ホールとか有効に使われてないように感じるので、もう少し減らしてもいいと感じました。 特に2階の調理室と講義室（吹抜）の間にある「対話の間」は、不思議なかたちで窮屈そうに感じ、ここまでして対話の間が必要なのか理解できません。</p>
7	<p>軽井沢町に住んでいる</p>	<p>◆事業費 【2ページ、6ページ】庁舎建設費について延床9,000m2に対して77.5億円とされています。 しかし近年、全国的に大型公共建築の入札不調や契約後の大幅なコスト増加が相次いでおり、建設市場は極めてタイトな状況にあります。そこで以下について具体的に説明してください。回答の際は可能な限り数値と前提条件を示してください 1. 当該概算はどの自治体・どの規模・どの構造の事例を基に算出されたものか 2. 軽井沢町のような寒冷地（凍結深度が深い地域）での施工条件によるコスト増をどの程度織り込んでいるのか 3. 入札不調や設計変更により建設費が増額した場合の対応方針 4. 建設単価が例えば20%上昇した場合の総事業費および財政影響 【5ページ】基本計画策定時点から建設費単価が月平均0.425%上昇すると予測すると説明されています。 しかし近年は建設労務費、資材価格ともに急激な変動が見られており、さらに昨今勃発した中東危機によるエネルギー価格急騰などを考慮すると、将来の建設費はさらに上昇する可能性は否めません。 そこで以下について説明を求めます。回答の際は可能な限り数値と前提条件を示してください 1. 建設費が想定からさらに10%・20%上昇した場合の事業費試算 2. その場合の地方債発行額および年間財政負担 3. 事業費が増額した場合に事業内容を見直す基準（いわゆる上限設定） ◆財政 【2ページ】税金は「令和7年度以降横ばい」とする推計を前提として財政シミュレーションを行っている」と説明されています。しかし地方財政の分析では、税金の減少リスクも含めたストレステストが通常行われま す。説明会やパブコメ資料では中間成果物が開示されないのはある程度は仕方ないと思いますが、庁内で何も検討がされていないとは考えにくいです。 そこで以下の点について庁内の検討経過について説明を求めます。 1. 税金が10%減少した場合の財政シミュレーション 2. 観光不況や不動産市況悪化などによる税金減の影響分析 3. 将来人口減少が税金に与える影響 特に当町は観光・不動産関連税金への依存度が比較的高いと考えられるため、景気変動に対する耐性について説明を求めます。回答の際は可能な限り数値と前提条件を示してください 【5ページ】利子3%で計算した財政シミュレーションが示されていますが、以下の点が明確ではありません。 1. 地方債の償還期間 2. 元利均等か元金均等かの償還方式 3. 金利上昇時の影響 金利が現在より上昇した場合の影響についても説明を求めます。回答の際は可能な限り数値と前提条件を示してください ◆チラス 【2ページ】中庭を持つ多角形の建物とする理由として「計画自由度」「維持管理費の抑制」などが挙げられています。 しかし一般的には複雑な形状の建物は施工コストや維持管理コストが増加する傾向があります。 そこで以下について説明を求めます。回答の際は可能な限り数値と前提条件を示してください 1. 同規模の単純形状（矩形等）の建物と比較した建設費 2. 維持管理費の比較 3. 多角形構造を採用する合理性 ◆全体 1. 本事業は当町の財政に大きな影響を与える公共事業であるため、財政試算の前提条件や建設単価の算定根拠、またそれによる事業費の増減や設計変更などについて、継続的な情報公開を行うべきと考えます。その具体的な方法について方針をお示しください。 2. 本事業の規模および事業費が当町の財政に与える影響を踏まえ、さらに他の整備手法（段階整備・機能分散等）との比較検討の結果、本計画が最も合理的であると判断した根拠について説明を求めます。 3. 本事業は、令和5年の事業凍結を経て再検討され、その後基本計画および基本設計案が示されていますが、その間に建設費、金利、建設市場の状況は大きく変化しています。現在の社会経済状況を踏まえた場合に、本事業を「今この時期に実施する合理性」についてどのような検討が行われているのか、その内容をお示しください。</p>

No.	属性	意見
8	<p>軽井沢町に別荘を所有している</p>	<p>「庁舎改築周辺整備事業における総事業費概算」                  どこを探しても、旧庁舎・中央公民館・老人福祉センターの、解体時のアスベスト撤去費用が見当たらない。撤去はかなりの高額になると思われるが。故意に入れなかったのか、忘れたのか。どちらにしても、それを計上しないまま予算を通そうというのは、自治体としてありえない姿勢である。                  「庁舎改築周辺整備事業基本設計」                  どのイメージ写真も、ショッピングモールと見まごう華美で奇抜で無駄なスペースだらけ。設置・配置されているもの全てデザイン重視で、今後管理維持にどれほどの金額を費やすことになるのか、皆目見当がつかない。                  本来は町役場職員のための施設であるべきが、職員は置いてけぼりで、面積の割に入り組んで狭い場所での業務を強いられ、職員食堂すらない。イベントや習い事に行きかう人々でかまびすしい中、業務を行うことになる彼らに同情する。                  なぜ補強すればあと60年以上使えるという素晴らしい建築家の手による公民館、老人福祉センターを壊し、このような使い勝手の悪い動線の建物に一体化することになってしまったのか。                  そもそも、この設計事務所による新庁舎計画を見直すと言って当選した現町長が、なぜ、他の設計事務所などとのプラン比較検討もせず、同じ事務所に依頼し、計画を継承することになったのか。我々は全くその経緯を知らされていない。                  反対意見を言う者に町側が決まって答えるのは「町民の意見を反映している」「説明責任を果たしている」「住民も参加して決定している」。しかし、実際には、はじめから本計画ありき。庁舎改築周辺整備事業推進委員会委員の話によると、意見を出しても、それが現新庁舎案とは相入れないものだと決して「議論」の俎上に上ることなく、次の委員会では、出した意見に対してのやり取りは行われぬまま、「こう決定しました」と、現新庁舎案が決定事項としてもたらされるのみ、その繰り返しだったという。                  説明責任を果たしたとして挙げている説明会やワークショップも、他の案は全く見当たらず、会場には、既に決定したかのように当計画の模型や資料が置かれるなど、「それについて」の意見しか述べる想定になっていなかった。説明も「それについて」のみ。反対意見を述べても「参考にさせていただきます」で終了。                  住民も参加している、というのは決して賛成反対入り混じる不作為な中からではなく、あらかじめ町が決めた人物が殆ど。「住民が参加した」という既成事実のためだけに募集で若干数を加えただけ。                  一体、どのような経緯を経て、誰が、今の新庁舎計画を決定したのか、未だそれを全く詳らかにしてもらっていない。                  住民説明会における設計事務所の言動                  住民説明会終了後、模型のそばに立つ設計責任者二人に話を聞いたが。驚くべき態度であった。                  なぜこの計画になったのか、と聞くと「住民説明会やワークショップで説明しましたよ」。いや、そこでは何もつまびらかにされてなかった。「全部に出席しましたか?」。いいえ。「それではわかりませんよね」。                  四角い普通の庁舎ビルを建てれば、費用が抑えられるのに、なぜこのような、周辺整備に巨額を投じる計画なのか?                  「四角い建物の方が費用がかかるんです」「これが一番安価なんです」。そんなわけではないでしょう。                  「あなたは設計の専門家なんですか?」。いいえ。「では、そう言い切れませんよね」。                  この中東情勢で、全く先が見通せない中、まだ計画段階なのだから、情勢が落ち着いてから始動しては?「あなたは中東の専門家ですか?」。違います。「じゃあ、あなたに先のことを見通せないですよね?」でもこの情勢を鑑みたら、費用がどんどん膨らんでいくのは素人でも予測できますよね?「先が読めないってことは、このままで済む可能性もあるってことですよ?そうじゃないってあなたは今断言できるんですか?もし今計画を止めてしまって何事もなかったら、あなたが責任を取ってくれるんですか?」                  理不尽な物言いを繰り返すその態度は、とても自治体の建築計画の説明を聞きに来た市民に対する設計者のものとは思えず。パブコメのために録音していたが、ついで有意義な話は出てこなかった。                  町長もまちづくり課も、計画ありきで強引に推し進めることだけに終始し、反対意見を口にする者を抑え込むことに拘泥し、町の未来だけを全く見つめないまま、全貌が見えない未曾有の巨額な自治体工事が始まるうとしている。                  計画段階なのを幸いに、立ち止まるのが通常の自治体の感覚のはずだが。今の世界情勢の中で、この天文学的費用がかかる計画を強引にスタートさせた責任は重い。今後、起こる全ての事態に対し「想定外だった」という言い逃れだけは絶対にできないことを、賛成した議員も含め、心に刻むべきである。</p>
9	<p>その他(別荘所有の町民)</p>	<p>本意見は、「庁舎改築周辺整備事業基本計画（案）」の特定箇所に対する逐条的な指摘ではなく、計画全体を通読した上での総括的な所見であることを、あらかじめお断りいたします。                  3月10日の新聞折込において、「軽井沢町庁舎整備計画を皆で考える会」によるチラシを拝見しました。同チラシでは「50億円削減できれば住民生活に投資できる」との趣旨が示されており、この点を踏まえ、削減の可能性という観点から本計画を精査いたしました。                  その結果、近年の建設コストの著しい上昇を背景として、本来であれば約168億円規模となり得た事業費が、各種の見直しにより124億円まで圧縮されていることを確認しました。もとより124億円は小さな額ではありませんが、資材費の高騰と深刻な人手不足が重なる現状においては、現実的な水準に収まっているものと理解されます。仮に数年前に着工していれば、より低廉な水準もあり得たでしょうが、現時点においてはやむを得ない範囲と評価します。                  他方、上記チラシにおいては、削減された場合の財源活用（町営住宅、交通、道路、地域活動等）についての言及はあるものの、肝心の削減手法については具体的な提示が見受けられません。建設費を巡る現下の状況に照らすと、実効性ある削減案の提示は容易ではないものと考えられます。                  また、町はこれまで、対話の場の開催、各区・各種団体との意見交換、住民説明会、パブリックコメントの実施等、相当程度の合意形成の努力を重ねてきています。他自治体の同種事業と比較しても、その取組は丁寧かつ十分なものと評価できます。                  以上を踏まえると、本計画については、これまでの検討経過と現下の社会経済状況を前提に、早期の事業化に向けて着実に進めることが望ましいと考えます。</p>
10	<p>軽井沢町に住んでいる</p>	<p>老人福祉センターの解体ではなくリフォームを望む                  40年経過も耐震補強工事により未だ存続可能と考えられ使い慣れ親しんでいるセンター（さくら草の湯を含め）を残して残っている人い敷地の中で可能な新庁舎を再検討願いたし!!                  上記案がどうしても不可能なら現基本設計（案）に「新さくら草の湯」を盛り込むよう追加発注することを提案する!!                  本体と接続 非接続は問わず杳掛の公共施設としての入浴施設「新さくら草の湯」（樽ヶ澤温泉利用5人以上洗い場がある）が建設される事を望むのが杳掛宿軽井沢宿の町民の声なり!!                  完成まで遠方で時間もかかり混雑が想定される追分宿の銭湯に我慢して通うことに致しますか!?                  ※民間立ち寄り湯で利用可能なお出かけ券2~4倍必要では!?                  ※給湯されている蓼科温泉樽が沢の「明礬炭酸泉」は皮膚病・冷え性に効能あって当地の塩化物泉と相まって健康長寿の源なり!!</p>

庁舎改築周辺整備事業基本設計（案）に関するパブリックコメント

No.	属性	意見
11	軽井沢町に住んでいる	<p>古くなった庁舎は建て替える!!</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンパクトで機能的なもの</li> <li>・なにより長時間勤務される役場職員の方々が使いやすいものをつくって下さい。</li> </ul> <p>庁舎に「緑のゲート」「緑の縁側」「緑の小径」がなぜ必要なのか？全く説明されていない</p> <p>庁舎建設後は速やかに売却し少しでも借金を減すべき</p> <p>「緑の駐車場」の中の公用車駐車場に何故4億円もお金をかける必要があるのか？</p> <p>増収を前提にしていないから慎重な推計です。と何故言えるのか、収入をいうなら支出の推計がなければ安全な計画と言えるのか</p> <p>例えば「軽井沢病院」の赤字補填や経営支援の為の補助金は前町長時代に比べると6～7億円が拡大されている。R9年は17億円になりそう!!</p> <p>病院も満足に経営出来ず、R8年はコンサル料だけで3千万円が6千万円効果目標すら説明出来ないのがそもそも問題</p>
12	軽井沢町に別荘を所有している	<p>庁舎改築周辺整備事業における総事業費概算について</p> <p>【2ページ】</p> <p>総事業費について。</p> <p>常駐住民数が2万2千人の町で、123.9億円もかけて新市庁舎を作る必要がありますか。</p> <p>建築単価86.8万円と算出していますが類似案件とはどこの案件でしょうか。</p> <p>市庁舎の建築単価は50万円平均で、寒冷地であることを考慮しても60万円くらい。</p> <p>なぜこんなにも法外な建築単価を提示する建築事務所を選んだのか？</p> <p>さらに言うと、なぜ選挙公約で高すぎる市庁舎設計金額を見直すと掲げて当選されているながら前市長と同じ建築事務所を選択したのか。</p> <p>ここは丁寧な説明が必要ではないでしょうか。</p> <p>また総事業費からアスベスト撤去費用を除いている理由もお聞きしたい。</p> <p>ここまで細かく設計デザインを出されるのであれば、撤去費用の具体的金額の算出も難しくはないと思われるのですが。</p>

No.	属性	意見
13	軽井沢町に住んでいる	<p>■ P1 上段の全体パースの右下の2棟の建物が13ページ右下に表示されている公用車車庫に呼応し、周辺環境に配慮すると説明があり、3.8億円が外構工事費に計上されていると理解されるが、経費削減が懸念される中、職員が業務で使う施設なので丈夫なものならばデザインはもっと簡素なもので十分ではないか？ 屋根のデザインに凝ることはなく、既存の車庫(既に取り壊しは完了しているが)程度で十分ではないか？ 特注ではなく、既製品あるいはその応用で対応すべき。</p> <p>■ P4からP9のパース 内観のイメージに、全然軽井沢らしさを感じられない。令和7年3月策定の基本計画48ページには地域産材の木材を構造材としての活用を検討し、木材の先行発注を見据え、積極的に検討するとの記載がある。議会の了解も得て成案となっているのに、どのように積極的に検討してきたのか？ P21に、議場の家具、壁、梁は木材を活用とあるが、議場にはほとんど町民は足を運ばない。梁や柱に太い木材をふんだんに使えば、浅間屋根と設計者が称している外観より、よほど軽井沢らしい。パースからはショッピングセンターのようなありふれた内観にしか映らない。</p> <p>■ P4からP9のパース イメージということなのだろうが、若い子供連れの家族を中心に誇張され過ぎている感がある。高齢者はほとんど描かれていない。町役場や設計コンサルの目指すところが露呈しているようだ。</p> <p>イメージだけではなく、P23 P24には、キッズスペース、子育て広場、子育てテラス、子ども食堂の記載があるが、高齢者や障害者に関する記載はほとんど無い。子育てを応援することを否定する意図は毛頭ないが、老人福祉センターを解体しておきながら、交流センターは子育てに偏り過ぎていないか？ 老人福祉センターのみならず、数年前、病院裏の雨天室内運動場や芝生広場では老人クラブの方がゲートボールを楽しんでいた。さくら湯も無くなる。どう見ても高齢者施策の後退ではないか？ 追分の木漏れ日の里に集約するからということと理解が得られるとでも思っているのでしょうか？</p> <p>■ P11 経費削減が喫緊の課題になっている中、些細なことのようなではあるが、町長室と議場のカーペットタイルのみが上級の物を使う仕様になっていて、町民、来庁者は普通のカーペットタイルになっている。金額の問題ではなく姿勢の問題であり、成案になる前に修正してほしい。借金が返し終わったら、上級のカーペットタイルに取り替えれば良い。カーペットタイルだから取替は容易なはず。コストカットのやる気を町長が、町民(すなわち有権者)に示してほしい。</p> <p>■ P45 見直しの削減効果の図について* 前町長時策定の令和4年基本計画と令和8年の事業費を比較しているが、そもそも、令和4年の計画の事業費自体が高すぎているため、それと比較して削減効果をアピールしても何も意味がないのではないかと。しかも、事業面積が5700平方メートル縮小されているので、それにもなって事業費が減るのは当たり前。町民にわかりやすく比較するため、庁舎の機能を全うする必要で十分なモデルを作り、それを基準として令和4年、令和8年の事業費を比較できる表に作り変えてほしい。</p> <p>* ZEB への対応は、今回の建替で大きな柱の一つとなっていたはずだが、令和8年のグラフでは0(ゼロ)になっている。理由が太陽光パネルからペロブスカイト太陽電池等への変更であっても現時点での想定で金額を入れ、但し書きなどで補足説明しておかないと二つの比較ができない。したがって自ずと12億円が減額になるのは当たり前。表の訂正を望むのがいいか？</p> <p>■ P45 財源の内訳のうち、65.5億を地方債 すなわち借金で賄うとしているが、そもそも前町長の時にしっかりと計画をして、町民の理解を得て迅速に工事を行なっていれば、その後の資材高騰や人手不足による事業費高騰の影響は少なかったことは間違いない。今頃とくに工事着工してははず。これは前町長と現町長の政治判断ミスで納税者である町民には一切関係がない。政策の失敗のツケを町民が補填する構図はどう考えても納得がいかない。町民が借金を払い続けることへの罪悪感はないのか？ 責任は誰が取るのかをお聞きしたい。</p> <p>■ P47 整備手順 についてステップ3-2 3-3 4-1のステージにおいて、工事用車両の出入口として、町道鶴溜線を使用しないでいただきたい。何故、18号線を使用しないのか？ 鶴溜線の沿道には住宅が張り付いている。大型車両や重機の往来で、振動、騒音、ジーゼルの排気ガス、粉塵、悪臭に何年も被害を受け続ける住民の身になって考えたことがありますか？ 後期高齢者も多いのですよ。毎日徒歩や自転車、二輪車でゴミ集積所に通っているのですよ。通学路に指定されて現実に小学生や中学生の児童生徒が毎日通学しているのですよ。特にステージ4-1 公民会解体では、住宅地の真ん前を重機ダンプが頻繁に行き来するのですよ！ さらに、整備した直後の鶴溜線が工事車両で損傷を受けるのは決定的です。それらも考慮に入れての支持露盤の強度を確保しているのですか？ 生活権、安全安心の確保をどのようにかんがえているのですか？ 庁舎周辺は第1種住居専用地域ですよ。明快な回答を求めます。</p> <p>■ P45 建設費の内訳の内、電気設備工事 20.3億円と膨らんだ原因は、銅の値段が大幅に引き上げられたためとの説明が傍聴していた推進委員会で設計者から説明があったが、それを補うため解体する庁舎や老人福祉センター、公民館の配線などに使われている銅を回収し、再利用することをSDGsを推進する町の姿勢とどのように検討しているのか？ 再利用の方が価格が急騰している銅を買うより安いと考えられるがどうか？</p> <p>その他の意見 ■ パブリックコメントを募集する時期の考え方として、実施設計の内容を説明会などでわかりやすく説明し、質疑応答などを行なって十分理解が得られてから意見を募集するのが妥当ではないか？ 今回の募集期間は3月6日から3月19日までの14日間、住民説明会は3月13日と14日で、パブリックコメントの締切まで事実上5日間。仕事や家事、育児などを抱えている町民にはあまりにも短い。しかも、令和7年の基本設計のパブリックコメントは2月25日から3月14日までの18日間であった。この日程、日数での重要局面での大切なパブリックコメント募集には納得ができない。しっかりと説明してほしい。</p> <p>■ 3月19日にパブリックコメントを締切り、その後行政側で意見の内容を精査し、修正すべき点は修正して、3月23日の庁舎改築周辺整備事業推進委員会でパブリックコメントに対する町の考え方も踏まえた議論ができるのか？</p> <p>■ 庁舎改築周辺整備推進委員会では、必ずパブリックコメントとそれに対する町の考え方を添えた資料を用意して議論すべきだがどうか？</p> <p>■ 今後の月内に予定されている議員全員協議会においても必ずパブリックコメント及びそれに対する町の考え方を資料にして行政から議員に説明すべきだがどうか？</p> <p>■ 町は、各区に赴いて二度意見を聞きに行ったということだが、どうして基本設計案についても各区に赴き説明会を開催しなかったのか？</p> <p>■ P13 国道18号線交差点付近の道路拡張 の項目の説明文の中に、「信号機の設置も見込んでいます」との表現があるが、令和7年11月25日地域整備課開催の無電柱化工事の説明会では、住民の質問に対して明確に設置すると担当課は答えている。ちゃんとした信号かとの念を押した質問に対しても「ちゃんとした信号機」と答えているので、「見込んでいます」ではなく、「設置する」と表現を改めてほしい。 ■</p> <p>■ 国道18号と町道鶴溜線を繋ぐ構内通路について1) 国道側からは敷地内には入れないのか？ その理由は？ 2) 鶴溜線の交通量を減らし、沿道住民への環境負荷を軽減するため、現公民館の出入り口をIN専用にしたらどうか？ 3) 構内通路の幅員、車線数は？ 4) 速度制限は時速15キロとし、万が一の事故に対する対応するため、防犯カメラの設置を求めます。5) 事故時の対応の観点から道路交通法の適用対象となりますか？ 6) 現在の構内通路に最近設置され効果を発揮しているハンプは必ず設置して特に交通弱者の安全を確保してほしいがどうか？</p> <p>■ ホールやまちの縁側は、階段状になっているが、災害時の避難場所、特に福祉避難所としての使い勝手を考えると、フラットの広いスペースにすべきではないか？</p> <p>■ トイレなどの中水利用として、雨水利用は考えられないのか？ ■</p> <p>■ ペロブスカイトを設置するのは、庁舎などの窓という理解でよいか？ ZEB Ready の実現には窓だけの面積で足りるのか？</p> <p>■ ペロブスカイト設置は、庁舎建設完了までに間に合うのか？ 間に合わなければ、それまでの代替処置としてどのような対応を考えているのか？</p>

No.	属性	意見
14	<p>軽井沢町に別荘を所有している</p>	<p>1頁 基本方針 「100年後の風景をつくる緑の中の建物」とあるが、100年前からあったであろう蛸が飛び交う水路を破壊しておいて言及がない。また後60年は保つとされた中央公民館を改修し使い続けることをせず、解体し新築する。何も無い土地に新築するのではないのだから、本計画は過去を断ち切り新しい景観を生み出す方針なのだと思える。ならばそのように明解に表明されるべきと思うがいかがでしょうか。</p> <p>2～10頁 パース 9頁に及ぶどのパースにも高齢者がほとんど登場していない。登場する40人の町民の内、高齢者は2組の夫婦だけだ。窓口対応では17人の内高齢者は4人のみ。町役場は高齢者対応を重く考えていないように見えるが、現在は75歳以上が5人に1人に対して30年後は3人に1人となるのが本町である。しかも若年層になればなるほど、来庁せずにデジタルに情報処理できるので、実際はこのパースよりもはるかに多くの比率で高齢者となるが、それを想定せずに建築計画を立てるのは大問題だろう。</p> <p>11頁 建築概要 構造はRC造+鉄骨造（一部木造）で当初の木構造からは大きく後退している。さらに内部仕上げにおいても、申し訳程度に壁面に一部県産材を使用しているだけ。「自然」や「緑」をうたうのはイメージのみだ。後述するが、軽井沢町が環境都市やゼロカーボンシティを標榜するのはもう止めた方がよい。</p> <p>12～13頁 配置計画 これまで敷地北側の住宅地に対して緩衝材になっていた中央公民館がなくなるため、もろに駐車場の車群が住宅に迫ることになる。庁舎は「緑の中の建物」ではなく「駐車場に囲まれた建物」と言った方がより正確だ。そして公用車車庫等の建設費用3億8千万円は多額過ぎる。一般車庫40台分は屋根のみのカーポートだそうだが、既製品であれば@10万円。丁寧な説明が必要とされる。</p> <p>14～16頁 平面計画 「交流拠点」が一貫して強調されるが、いったいどれほどの町民・別荘住民が、庁舎に「今までになかった出会い」を期待するのだろうか。これが文化インフラに乏しい市町村での話なら理解もできるが、国内有数の避暑地軽井沢には、あふれるほどの「交流拠点」がある。中高生の居場所づくりと言う声も一部にあるようだが、それならばなぜより交通利便性が高い「くっかけテラス」を活用しないのか？このような計画案は「絵に描いた餅」でしかなく、言葉遊びの類いに思える。さらに広場と称するスペースが執務スペースと隣接している。現在でも庁舎に行くと、併設する建物2階からの騒音が会話を妨げる。それがほんの数m先であれば、雑音が入るとなおさら聞き難くなる高齢者や難聴者にとっては大きなプレッシャーとなるので、いったい何のための庁舎なのかという疑問が生まれるだろう。ちまたでは「文化センターの中に役場と議会が間借りしている状態」との感想も出始めている。立案者には猛省を促したい。</p> <p>17頁 断面計画 多くの方から降雪、降灰の問題を指摘受ける中庭は、庁舎と公民館を合築するため巨大化した建物の高さを抑えるための苦肉の策のようだ。これについては元々既存公民館を改修して、庁舎と交流センターとに分棟してあれば起こらなかった問題だ。また分棟してあれば、被災時に一方が残ればリスクヘッジともなる。</p> <p>18頁 立面計画 プロポーザル時に当時の選考委員会から、軽井沢病院の2階から浅間山が眺望できるようにすることが望まれたそうだが、いったいどれほどの人がその恩恵にあずかることをありがたく思うのだろうか。敷地内で現在最も良く浅間山が眺められるのは、高齢者福祉会館の2階へと上がるスロープだが、これまで一度たりともそこから眺望している人の姿を見たことがない。現場に立たずに計画する、机上の空論の典型である。</p> <p>19～20頁 オフィス窓口計画 オフィスはいずれフリーアドレスを導入とのことだが、いずれの市町村役場においても結局は元の固定デスクに戻っているのが実態のようだ。フリーアドレスが適するのは、日中は社外に出ている営業職とか、今やテレワークが中心のエンジニアや企画、コンサル系といった職種である。一方で紙の書類を扱いデジタル化しにくい職場（役場はその典型）は、職員の作業効率を下げる。窓口は一本化する計画だが、実際庁舎で観察していると多くは、専門業者が許認可等で来ていることが分かる。彼らのためには、従来のセクションごとの固定デスクの方が手間がかからず、はるかに時間の節約になる。</p> <p>22～23頁 交流センター計画 まず本事業は令和3年3月に、1 防災拠点、2 環境に配慮、3 利用者に寄り添う、4 緑の中、5 機能的効率的をモットーとした庁舎建設の方針で始まっており、複合施設は第二期工事として新庁舎と一体的に計画するものとされていた（合築という意味ではない）。それが今や「文化センターの中に役場と議会が間借りしている」かのような、主客転倒した建築計画に変容している。2023年11月に行われた無作為抽出意見交換会では、公民館機能の拡充および「交流センター」としての在り方について住民の間で激しい議論が交わされ、AI分析に寄せれば「必要性への疑義」と「活用方法の具体性」が問われていた。実際、この交流センターを庁舎と一体化することで建設工事費、設計報酬、工事期間そしてLCCさらにLCAにおいて、大きな負荷がかかる可能性がきわめて大であり、まずは町民、住民がどのような「必要性」「活用方法」を求めないのか、真摯に町の声を聴くプロセスが必要とされるのではないかと。</p> <p>24～25頁 環境計画 本計画で最も落胆させられたのが、環境計画である。新築時における低いZEB達成度、寒冷地であることを無視した「中庭」などの開口面積の大きさ。軽井沢は改正建築基準法において断熱等級4が義務化された寒冷地であり、一般的な住空間では室内の暖気は開口部から5割以上逃げるので、北欧のような壁厚と必要最小限の窓が合理的な環境下にある。しかしこの設計案では、別荘のように夏季利用を中心としたライフスタイルが前面に出ており、町民のリアルな暮らしからはかけ離れている。また当初は太陽光発電による創エネが予定されていたのが、設置場所とコストの面から先送りされてしまっている。将来対応としてペロブスカイトが持ち出されているが、この日本発の次世代太陽電池は、いまだにコスト、寿命、そして何より毒性のある鉛の問題が解決されておらず、いつ導入できるかは見通せない。ZEB先送りの言い訳としか聞こえてこない。そして最大の問題は、環境都市やゼロカーボンシティを標榜する軽井沢町においては、何よりCO2排出削減が追求されるべきところが、まだ60年は使えるという中央公民館を解体撤去して、コンクリートや鉄など生産時に多大なCO2排出をする材料を使うRC構造の建物を新築する。2028年にはLCA（ライフサイクルでCO2などの環境負荷を定量的に評価）を義務化し、スクラップ&amp;ビルドを脱却しようとする時代に逆行する選択を行っていると言わざるを得ない。</p> <p>26～28頁 防災・減災計画 断面計画でも指摘したように、中庭は、多くの方から降雪、降灰の問題を指摘受けている。また既存公民館を改修して、庁舎と交流センターとに分棟してあれば、被災時に一方が使用不能になっても、一方が残ればリスクヘッジとなる。そしてこの庁舎では避難収容人数がわずかに325人となれば、現実的には風越地区の体育館、アリーナが避難場所になる公算が大きく、そちらに避難拠点を分散させておくことも必要と思える。非常時のエネルギー確保については、設備に詳しい方から電力一本に頼ることの問題点を聞いている。非常用発電機を備えるとのことだが、大型油タンクの保全が十分でなければ全く機能しないので、LPガスの利活用も検討すべきとのことだ。</p> <p>29～30頁 セキュリティ計画 これほど複雑なセキュリティ計画になるのも、ひとえに情報を守るべき議会と庁舎に、（今までになかった出会いを生む）交流センターという異質な空間を、無理矢理に合築させたことに因る。これまでのように庁舎・議会と、公民館という異なる機能のものは別棟にしてあれば、シンプルに維持管理でき、このような多大な設備費・警備費がかかることは避けられるはずだ。</p> <p>32頁 ランドスケープ 事業費の中で最も内容が明かされていないのが外構工事費だ。段階整備で計9億2千万円。内訳は、植樹や通路、緑化整備が5割で4. 億6千万円、種まきや砂利敷きで3億7千万円、既存のままが1億円弱。整備費で一番手間がかかるのは植樹だが、高木なら@30万円、中木なら@10万円程度で植えられる。パースでは100本程度なので、すべて高木でも3000万円。桁が一つ違うのではないかとさえ思えるほど、造園業の常識から外れている。発注の明細が明らかにされなければならない。</p> <p>45～46頁 事業費 LCC まず供用期間を100年とした意味が分からない。文化財なら100年の可能性は否定しないが、これは住民サービスを目的とする庁舎である。100年後は幼児を含めた現在の町人口の99%はもういない。借金の返済を終える30年後に大規模修繕を施し、後30年供用するとして、60年間のLCC算定数字を提示する方が、確実に説得力があるだろう。</p> <p>ところで参考図表では、大きくコストが上振れするのは、①築30年、②40年後、③60年後となっている。いずれも大規模修繕で、60年後にはインフレを考慮しなくても今回の建設費以上の出費を覚悟しなければならない。基本設計で一番特徴的なのは中庭を囲む大屋根だと思うが、このガリバリウム鋼板は40年後には確実に交換するので（大工事になる）、現在でも予測できる修繕内容と金額はオープンにする必要があるのではないかと。各種数値の設定においても、不明な点が多々ある。建設コストの内訳が設計・監理・建築費で79億円弱となっているが、別の参考資料3では、建設費77.5億円、設計費・用地取得で20.5億円とあり、用地取得費8億円を引くと90億円となる。今回発表されたLCCの算定結果は、きわめてアバウトな運用コストと保全コストだ。</p> <p>現設計者が選ばれたのは、プロポーザルコンペによるもので、設計コンペではないので、求められるのは「実行者（人・会社）」の能力と実績であり、それには予算内でベストの解を提案することが期待されている。しかしながらこれまで設計者が行ってきたのは専ら彼らの「作品」とも言うべき設計案であって、建設費の高騰を理由に予算を大幅に上方修正し、それ以上については面積縮小という方策しか打ち出してこなかった。本来は他のアプローチ「設計の簡素化」「発注方式の工夫」「事業手法の転換」も提案してくるのが、彼らの務めであるはずなのにと思う。</p> <p>基本設計の最終段階でやっとLCCが出されたが、これも本来1年以上前にタタキ台として提出されるべきものであった。この比較無くして、職員を含め一般の住民が計画の方向性を見定めるのは難しい。事ほどさように、現設計者は自分たちを設計コンペの勝者として、心の内では認識しているのではないかと疑念がわく。設計コンペであれば、現在の中庭を中心とした建物がいかに建設費、運営費、修繕費がかかるかが、選ばれたものは選ばれたもの。その実現にプライオリティが置かれてもおかしくはない。しかし繰り返すが、彼らは庁舎改築プロジェクトの適正な遂行能力を認められ選ばれたはずなのだ。もう一つ不透明に思えるのが、きわめて高額な設計報酬だ。前述したように設計費、調査費で十数億円予算化されている。既に支払われている基本設計までもが4億2千万円。最近北海道で話題になった八雲町の例で言えば、隈研吾設計事務所に支払われたのは実施設計分も入れて1億9千万円（庁舎建設費は40億円程度）。あまりにも大きな違いだが、その内容は明らかにされていない。決して限事務所の設計費が十分だったとは言わないが、いったいどういう根拠でこれほどの差異が生まれるのか。国交省の業務報酬基準に則った算定を明らかにしていただきたい。</p> <p>そして不透明感の高いランドスケープ費用を含め、本事業を遂行するにあたって、あらためて外部（現設計者にも建設会社からも独立した）のコンストラクション。マネージメントを導入し、住民の疑念を払拭することを町役場に強く要望したい。</p>

No.	属性	意見
15	軽井沢町に住んでいる	<p>【 13 ページ】</p> <p>1) 老朽化した庁舎の建て替えは大賛成です。将来の役場業務の在り方を踏まえ、働く職員の使い勝手を重視した機能をコンパクトに仕上げるのが何よりも優先されるべきと考えます。</p> <p>2) 自然・気象現象、技術革新、人口問題、世界経済動向など、すべての事が先行き不確定且つ不安定な時代に入っており、100年、いや50年、30年先すらもどうなるかわからない時代に、近隣市町村が庁舎建築に費やした額の数倍になる「124億円もの高額で豪華な建物」を65.5億円も借金し、且つ積み立てた基金を40億円も使い建てることは、将来無駄になるリスクが高く、町の判断には危機感を覚えます。町は税金の使い道としての優先度をもう一度良く考えていただきたいと思います。</p> <p>3) 高額な建物になる原因は、今後も使えるとの町の調査結果にも関わらず公民館を解体し、新たに交流センターとし、そこに庁舎と議場を一体化させた複合施設とするからです。</p> <p>4) 既に町には多くの公共施設がありますが、利用率は平均で30%と言われてます。交流センターになれば「交流する場、活動や表現する場が増える、この町の可能性を高める場所が増える」との賛成意見を聞きます。しかし、利用度が30%程度の建物が居並ぶ軽井沢で、それら建物をそのまま放置したまま、あらたに124億円を使い、またまた、新しい建物を建てる必要があるのでしょうか？ 富裕と言われる軽井沢町ですが、国際保養地/別荘地、観光地、住宅地として手を打っていくこと、守るべきことが山積みで、複合施設事業はどう見てもこの町で第一に優先されるべき事案ではないと考えます。</p> <p>5) 先ずは基本設計の交流センター部分は、既存の建物の利用率を上げる取り組みの中で既存建物・施設の中にスペースを見出し総事業費を下げる。公民館は解体せず、リノベーションで事業費を下げる。緑のゲート、緑の縁側、緑の小径は全く不要。購入した土地は庁舎完成後に売却する。こうした事業費削減で生み出したお金は住民の暮らしに必要なことに優先度に応じて使っていく。これが一般常識の町政です。</p> <p>『財政判断・全般』</p> <p>1) 「増収を前提にせず、横ばいとする保守的な設計」とありますが、下振れすることも覚悟すべきです。且つ、令和20年までの予測は通常の事業予測では短すぎます。起債期間が満了するせめて向こう30年間の予測を三通り出すことが判断材料に必要です。今から35年前を思い起こしてください。1990年前後です。日本と世界の相対的地位の変化を。特に当時の中国をご存じであれば、たった30から35年の短い年月でもこれほど変わるものと再認識していただきたいと思います。</p> <p>2) 軽井沢は施策で人口減少を食い止めることが出来るとの発言が3月13日/14日の説明会でありました。町民人口の減少を外部の資本と人材で埋めていこうとする考えは乱開発誘導と受け止めます。軽井沢らしさが失われてしまえば、単なるやや高級な地方都市に成り下がり、税金は期待に反して低迷するとの見方も必要です。庁舎建て替えだけであれば、金額も抑えられ、ここまで財政についての不安は出てきませんでした。しかし、複合施設となった高額な庁舎は将来のまちづくりとは切り離せない事業となっていると感じております。</p> <p>3) 一方、財政判断には収入と同時に支出の推計が必要です。単に歳入・歳出予測だけでなく、町の固定資産/資本金の支出以降の維持・更新費用がどれだけ計画的に積立てられているのか、それもあわせて、向こう30年間の数値を資産別に提示していただくようお願いいたします。それが無くして判断できません。</p>
16	軽井沢町に住んでいる	<p>令和8年3月13日の基本設計(案)に関する住民説明会に参加しました。総事業費が見直し前の168億円から、B案(一体案)で124億円になるということでした。</p> <p>総事業費は減りましたが、床面積は4割も縮小されています。</p> <p>今後、物価上昇を加味すると、来年3月の実施設計完了時には約130億円、令和11年の完成時には約140億円になる可能性があるかと記載されています。</p> <p>町長に、完成まで124億円でするのか？ 予算上限額を決めて見直ししないでのいいのか？と質問しましたが、明確な回答はありませんでした。</p> <p>さらに、各区での説明会などで、A案B案C案は、それぞれ事業費も出して説明したのか質問したところ、事業費は伝えていないということでした。事業費関係なくどの案がいいかと聞けば、一体で新築できるB案を選ぶ人が多くなるのは当たり前だと思います。</p> <p>B案は124億円で、完成時には140億円になる可能性があるかと説明していたら、C案(庁舎+公民館改修)がよいと考え直す人もいるのではと思います。</p> <p>B案(一体案)は、面積が4割縮小されているだけでなく、いつの間にか、中庭が出来て、不等辺多角形の屋根の大きな建物になっていました。この案では、シンプルな外形より、工事費もかかり将来のメンテナンス費用も多くなるかと思えます。</p> <p>来年、実施設計が完了した時に、予算オーバーしていたら、124億円に減額しないといけませんが、基本設計(案)のような複雑な建物を減額することはできるのでしょうか？</p> <p>シンプルな外形と屋根にしておけば、少し短くしたり調整できます。将来のメンテナンスも安くなります。</p> <p>せっかく民有地を購入して、整形の敷地になったので、建物をシンプルな矩形にしないのは、無駄使いだと思います。全然、質実剛健ではありません。</p> <p>4割面積が縮小されてしまう点からも、物価上昇も考え、C案(既存+公民館改修)に見直しするのがよいと思います。中央公民館は、築50年で耐用年数の65年までまだまだ使えます。中央公民館の改修は、当初の通り2期工事とし、今回の庁舎建設とは切り離し、物価高ですが、まずは庁舎だけ中庭を作らずにコンパクトに建てるのがよいと思います。</p> <p>以上より、C案(庁舎+公民館改修)に近い、まずは、庁舎だけコンパクトに建て、将来に中央公民館を改修するのが、よいと思います。</p> <p>設計料が9.7億円から13.3億円になったと聞きましたが、本当でしょうか？ 高すぎて驚きました。</p> <p>もっと真剣に町民のことを考えて欲しいです。庁舎等が124億円で完成しなければ、御代田町などに引っ越そうと思います。</p>
17	軽井沢町に住んでいる	<p>信州カラマツを構造・内装に全面活用した「五感に響く木造庁舎」の実現を強く要望します。</p> <p>【具体的な提案と理由】</p> <p>1. 実証された心理的効果と「集中力」の向上</p> <p>私は佐久森林組合の研修で、信州カラマツが導入された東京都の「有明西学園」江東区小中一貫義務教育学校を視察しました。現場の先生方から**「木のぬくもりによって子供たちが落ち着き、学業に励んでいる」**という生の声を伺い、木材が持つ教育・心理的効果を確信しました。この「落ち着き」は、窓口を訪れる町民への安心感や、職員の執務能率の向上に直結します。</p> <p>2. 五感を癒やす信州カラマツの特長</p> <p>? 色味（視覚）：カラマツ特有の力強い木目と、年月を経て深みを増す**「温かみのある飴色」**への変化は、新築時だけでなく、30年、50年と時を刻むほどに庁舎への愛着を深めます。</p> <p>? 香り（嗅覚）：視察時に感じた、カラマツ特有の**「爽やかで凛とした樹木の香り」**は、公共施設特有の緊張感を和らげ、リフレッシュ効果をもたらします。</p> <p>3. 地場産業の象徴としての木造ビル</p> <p>構造材（CLT等）から内装材まで信州カラマツを多用することは、軽井沢のアイデンティティそのものです。「軽井沢の風景」を庁舎の中に再現することで、全国に誇れるサステナブルなランドマークとなります。</p>
18	軽井沢町に住んでいる	<p>17ページ 平面計画1階について</p> <p>?資料倉庫の存在と広さが不明</p> <p>現在の中央公民館大講堂に付随している倉庫内の長机及び椅子類は、新庁舎ホールにおいても、必要と思われます。新庁舎講堂で長机と椅子を利用時にホールでも、それらを同時に利用することは大いに考えられますので、ホールの近くに収納する倉庫を明記検討してください。</p> <p>?音楽スタジオの広さと人数</p> <p>音楽（例えば合唱）をするにあたり、一人当たり2.5?が必要。普通の合唱団体で25名の構成員を想定してください。同様にピアノの寸法を検討しておいてください。</p> <p>活用できる新庁舎ホールにするためにもご検討を願います。</p>

庁舎改築周辺整備事業基本設計（案）に関するパブリックコメント

No.	属性	意見
19	軽井沢町に別荘を所有している	<p>・6, 7p他 パースや図面を見る限り演者は幕を使用しない限り、上手側から登場することになるのは少し残念だが、開放性を優先させたということか。幕を使用する場合、舞台裏は上手側から下手側へ移動可能なのか？</p> <p>・6, 7p 客席は固定で階段にクッションを固定設置する仕様のようだ。イメージパースでは安っぽい雰囲気があるが、意匠性は最低限保たれるのか。</p> <p>・6, 7p 客席下手側壁に、採光？の窓がある。階段に面する壁と思うが、この窓は必要なのか？音響の面でもコストの面でも特にいらぬのではないか？</p> <p>・6p 舞台照明は都度、公演側で外注することになるのか。・11p ホール床の仕上げはビニール床シートとのこと。17p の図面では、ホールの床面は少し厚く描かれているが、二重床予定とできているのか？舞台部分だけでも床材は木にしてほしい。音楽専用でなくとも、演劇や落語や講演でも木の方が望ましい。また、反響板が皆無に見えるが、何か音響として考慮したこと、または考慮する予定はあるのか？</p> <p>・15p サービス用玄関から機材搬入ができるとのこと、トラック荷台やパワーゲートから直に搬入できるか？また舞台までの搬入経路について、扉幅含めクリアできているか。</p> <p>・22p 図面の楽器庫の温度、湿度の空調設備は整っているか。</p> <p>・24p 図面の客席下のスペースは空きスペースなのか、それとも客席が可動収納式なのか？</p> <p>・42p ホールの空調設備は大風量の外気処理とのことだが、公演中の空調のノイズは大丈夫なのか。</p> <p>●全体：トイレの個数について</p> <p>・ホールは300人収容、避難場所としても使用とのこと。トイレの数はこれで良いか。</p> <p>以上、ホールについてのコメントをお送りします。これから詰めていく段階かもしれませんが、あくまで現段階の資料を拝見して気付いた点です。子供たちにも、住民の方々にも、なるべく良い環境で、発表をしていただきたいと思います。軽井沢には大賀ホールがありますけれども、これは完全にほぼ音楽専用ホールです。音響とデザイン性が良く、面白い空間であれば、音楽家だけでなく、良きアーティストが集う場にもなり得ます。世界に開かれた軽井沢町のシンボルとなりますよう、願っております。</p>
20	軽井沢町に住んでいる	<p>大人も子供も誰もが行きやすく、安心と活気のある場になることを願っている。</p> <p>これから工事を進めるなかで、もし想定以上に価格が上がった場合、下記のような検討はできないだろうか。</p> <p>・後から手を入れると機能やデザインが損なわれるもの、後からの工事だと価格が上がるもの、本当に必要なものを優先的に工事。作り込みすぎずに、イベントや時代に合わせてアレンジできる 余白を残す。</p> <p>・備品など町民も参加して作ってみる。軽井沢町は多彩な方が多いと感じている。得意な方に教えて頂いたり、建物ができた後、どこに何を(ベンチ、椅子、台など?)置いたら良さそうか、子供も大人も歩きながら案を出して作ってみる。</p>

No.	属性	意見
21	軽井沢町に住んでいる	<p>「新施設のこれまでとこれから」チラシ 合意形成について</p> <p>確かに、意見交換会も対話の場も住民説明会もパブリックコメントもたくさん開催してくださいました。そこには、敬意を表します。頭が下がります。本当にお疲れ様です。そんな思いを持っておりますので、お尋ねすることも極力控えてまいりました。また私自身、言語能力は低いですし、議論はもってのほか苦手です。ですから、町長にお返事をいただきましても、担当職員の方にお答えいただいても、それに対して意見を言わずま、月日が流れてしまったという反省も大いにあります。お相手が忙しいと、必要以上に遠慮してしまうという欠点もあり、結果今になって、このようなパブリックコメントを提出しなければならないこと自体心苦しい思いです。土屋町政前の検討委員会の委員構成や進め方が、あまりにもひどかったのが、当時を知っている方は、土屋町政になって、進展したと高評価をしている方々がいるのは承知していますが、合意形成のために、多くのことを実施してきたけれど、合意形成のためのプロセスが踏まれていなかった、・推進委員会の中で委員が意見を言っても深掘されない ・論点が整理されないまま進む ・結果として「議論したように見えるだけ」になっている これらの事から、結局中身がなく、結果が得られなかったと言わざるを得ないのではないのでしょうか。これは会議が会議として機能していない状態で、住民参加の仕組みはあるのに、実際には意見が意思決定に届いていないという結果を招いてしまったのではないのでしょうか？ これらを証明する文章は議事録の中にたくさん存在しますが、一つとても不思議なことがありますので、解明できれば有難く思います。</p> <p>第4回推進委員会【事務局】が次のようにお話されました。「委員の皆様にお話ししたいことの3つ目、委員会もこの24人の委員全体で行っていくのか、はたまた部会に分かれて検討していくのかという会議の形式についてでございます。第1回の委員会でも少し触れましたが、本委員会は庁舎と公民館機能の拡充施設をそれぞれの部会に分けて検討することができるようなたてつけで作ってはおります。なぜそのようなたてつけにしたかといいますと、委員会全体の構成員24名をコンパクトな組織にして、議論がしやすくしたいということと、またより機動的に動けること等を利点に考えた結果です。」と以下を読んでも第5回以降の推進委員会の議事録を読んでも、この大切なことの議論が途中で終わったまま進んでいきました。続きです。【委員長】会議の開催形式っていう、今24名の方でやっていただいております。元々の事務局が考えた素案は、あくまでも素案ですけども、特に公民館機能とそうでない部分のところである程度内容が違うので、委員を分科会として分けるということも案としてはありました、ということだと思います。ただ、私も覚えておりますが、1回目の会議の中で、そもそもそういう形でやる必要があるのかっていうご発言も、全員ということではないですけども、あったかと記憶しております。またそのときにはあの部会にわかれるなら、庁舎側の方がいいという方が大多数だったということもありまして、必ずしも部会でやらないといけないという説明ではないように思います。ただあくまでもフラットな状態で、ということでは皆さんにお伺いしたいのですが、議案によって部会という活動にした方がいいケースがあるか、それともなるべくやっぱり全体でやった方がいいかということに関して、ご意見をいただければと思います。【G委員】これ中央公民館を建て替えるかどうか、っていうのはどこで決まるんですか。それが決まらないと部会に分けることはできないと思うんですけど。【事務局】そういった意見もあろうかと思いますが。例えばリノベーションだけすればいいのかとか、こういう機能が必要なんじゃないか、とかいろいろ議論があるかと思しますのでその辺をやっていききたいということなんです。部会に分ける必要があるのかどうかというのはあると思いますので、その辺ですね。【G委員】これが決まらないと、部会に分ける意味がないということです。【委員長】そうですね、よくわかりました。はい、ちょっと待ってください。H委員、お願いします。【H委員】すいません、今後の進め方でやっぱりちょっと疑問に思うのが、ワークショップを何にするにしても庁舎の事業費をいくりにするのかって、その中で何ができるのかっていうところで、やっぱり事業費もある程度このぐらいに、額に収めなきゃいけないんじゃないかっていうところの話し合いと、ともにその金額であればやっぱり中央公民館は改修の方でやりましょうっていう話になってくるのかなと思うんですけど、そこら辺の進め方とあと庁舎に何を求めてコンセプトは何なのかってことをはっきりしないと町民の方たちと話し合いになったときにも、進めていく、何を求めて、話がまとまっていかなくなっちゃうんじゃないかなと思うので、その進める前に、まず基本となる元となるところをきちんと話し合っ、事業費はいくら、もうあのコンセプトはこういう形でやっていきたいと思いますので、それについて精査していくっていう方がいいんじゃないかなと思うんですけど。</p> <p>H委員も重要なことをおっています。まず基本となる元となるところをきちんと話し合っ。やはり「はじめが肝心」です。このはじめの話し合いがないがなかったために、推進委員会も、説明会もたくさん開催したにもかかわらずその効果がなかったと言わざるを得ません。おぜん立てができていたら、いくつもの分科会ができていたことでしょう。軽井沢町に長年暮らしている長老大先輩がおっしゃいました。「モナリザの絵がピカソには描けない、ピカソの絵はダビンチには描けない。設計者が同じであれば、結果根本は変わらない」と。この大先輩は「租税を節約して、福祉に当てなさい」という意味の孔子の言葉」を大切にされていました。このような意見も流されてしまったことが残念でなりません。以下、議事録の続きです。【委員長】はい、ありがとうございます。という論点もあるのですが、先に部会の方の話としては、先ほどのG委員がおっしゃったみたいに、順番として、まず今決めなくてもいいんじゃないかということが一番大きいと思いますので、私も同じ意見で基本的には、この3点目のご質問が一応ありましたので、皆さんにご議論いただきましたが、現時点ではまだ決めないということで、先に進めさせていただくのがいいかと思ます。今、H委員の方からありました、今日実は本当は2番目の庁舎と公民館機能の拡充施設についての議題も設けておりましたが、ここは私の不徳の致すところで、時間内には収まる見込みがありませんので、議題としては次回に延期させていただきたいと思ます。このようにあまりにも話し合うことが多岐にわたり、時間も足りないことがよくわかります。結局、初めに事務局がお話ししたいといった3つ目の24人の委員全体で行っていくのか、はたまた部会に分かれて検討していくのかという会議の形式について」の話し合いが断ち切れたまま委員会が進められていったのはなぜでしょう。</p> <p>基本設計案のイメージパスについて多くの利用を目指しているのであれば、「中軽井沢 町中歩き構想」を提案します。例えば、南方面に住んでいる方が自家用車で庁舎へ行くとき、駅の南側に無料で止められる町の駐車場があったら、そこに止めて歩きます。1. 18号線の渋滞緩和 2. CO2削減 3. 人との出会いを生む 4. 健康増進 5. 買い物等、気軽に寄り道ができ、歩くことでのいろいろな発見がある。このようなメリットが考えられます。</p>